

科学技術の潮流

JUST研究開発戦略センター

183

レクター(図)は、ズ2で知的財産、資金は人文・社会科学(S)などにの変化を促すものにSIフラグを、さらに文・社会科学に深く関わり期待されていることと考えられている。その85%にSSHフとかが見える。ドイツでは連邦教育研究省がSIに向けたアイデアのコンテストを20年に開始した。前述のNSFプログラムと同様の支援を提供する。

複雑化する社会課題の解決に向けて、第6期科学技術・イノベーション基本計画(2021年)は自然科学と人文・社会科学の融合による「総合知」で取り組む方向性を示した。知の融合を加速する研究施策は米国や欧州も実践している。

このプログラムは、このプログラムの内容は、創業初期のスタートアップを支援する「ホライゾン・ヨーロッパ」で初期的なアイデアを概念実証に発展させてパートナーを特定する。フェー「ホライゾン2020」における価値観や規範

欧米、研究に知の融合加速

米、分野統合

米国では04年に競争力評議会が研究力強化のために国立科学財団(NSF)の予算倍増や大学における複数分野にまたがる研究の増加を提言した。以来、



科学技術振興機構(JST) 研究開発戦略センターフェロー 山本里枝子

早稲田大学理工学部電子通信学科卒、富士通研究所にてソフトウェア技術の研究開発に従事。システム技術研究所長、富士通研究所フェローを経て21年より現職。博士(ソフトウェア工学)、日本学会議会員。

コンバージェンスアクセラレータープログラム

アイディエーション アイデアを収集し、ワークショップで検討 公募し、「知的メリット」「幅広いインパクト」を5つの観点で審査	フェーズ1 イノベーション研修を中心とした実践活動(9カ月) 研究を実践に移す24カ月の開発計画を作成。ピッチに参加(3カ月)	フェーズ2 選ばれたチームが24カ月でソリューションを開発 起業家研修に参加し実践的に学ぶ	社会的インパクト 国家規模で持続可能な成果 例: ・新市場 ・オープンソースでアクセス可能なツール/ナレッジ
	現在、2トラックが終了、4トラック(量子技術など)がフェーズ2、4トラック(5Gインフラで運用するセキュリティなど)がフェーズ1。2023年も2トラックを公募予定 (https://beta.nsf.gov/funding/initiatives/convergence-accelerator より作成)		

またイノベーション政策の概念モデル「トランスフォーメティブイノベーション」は制度、人間の行動様式などを含む社会システムレベルの変革を目指すもので、社会やそれを形成する市民が重要な主体となる。日本の研究施策を検討する際も、知の融合で社会を変革する各国施策の動向を注視する必要がある。

(金曜日に掲載)